

# 地域・職場での心の健康を考えようー みんなで学ぼうシリーズ拡大版

特定非営利活動法人 ともに

〒044-0053 北海道虻田郡倶知安町北3条西2丁目1-1

## 助成事業の概要

**実施目的：**精神疾患や障がいに関する理解と交流を広めるため、平成21年から精神障がい者・支援者・地域の人も参加できるミニ講演会を地域拠点病院の協力を得て毎月開催してきた。5年前から“理解を広める”取り組みから、家庭や企業でも問題を抱えている心の健康について“一緒に考える”企画が必要と考え、全国で活躍している講師を招き、自殺率・精神障害者とスポーツ・地域職場で考える心の健康、など多彩なテーマで開催してきた。今年度から講師を医療者に限定せず経済・教育・福祉など幅広い分野と連携し、地域とともに心の健康を考え地域全体が元気になる事業へ定着させることを目的に取り組んだ。

**時期：**平成29年7月8日（土）

**内容：**第1部 講演「みんなの健康を支えているもの～目からウロコの公衆衛生～」、第2部 講師・司会者の対談、第3部 会場での討論会。

## 事業の成果

1. 精神障がい者・支援者・地域の人合計50人の参加があった。倶知安町の月刊広報誌に講演会の折込みチラシを入れ全戸配布したが、天気の良い休日の行楽日和となったことや地域のイベントと重なったことで目標の半数の参加にとどまった。チラシを見て参加した町民もおり、当法人が毎年「地域・職場での心の健康を考える」取り組みを行っていることを周知できたのではないかと考え全戸配布効

果はあったといえる。

2. 講演会参加者から「普段聞き慣れない公衆衛生や保健所の制度だが実は日本独自の制度で世界に誇れるすごい実績を積み重ねてきた、ということを感じながら学ぶことができた」との感想があり、広く健康について考える機会になったといえる。
3. 地域とともに心の健康を考え地域全体が元気になる事業へ定着させるという目的については、町民個々の参加はあったが地域の要となる町内会や地元企業との関りを深めることができず定着の第1歩とまではできなかった。講演会の対象の設定と講演内容の検討についても来年度の課題であり、これからの地道な日常的な取り組みが重要であると感じた。
4. 講師が地元の保健所所長であったため、講演会前後の懇談で、普段感じているこの地域の保健・医療・福祉の問題についてざっくばらんに意見交換でき情報の共有ができたことは収穫であった。

## 成果の広報、公表

7月8日「みんなで学ぼう夏の拡大版 地域・職場での心の健康を考えよう」を開催しました。今年は倶知安保健所所長の人見嘉哲先生を迎えて、公衆衛生のお話をさせていただきました。

公衆衛生というとどんな活動をしているのか、言葉を聞いたこともないという方もいらっしゃるかと思います。しかし保健所を中心に活動している公衆衛生は、わたしたち国民にとって欠かすこ

とのできない存在だということです。

わずか100年前まで、日本人の平均寿命は50歳前後でした。それが健康の啓発活動や感染症の予防活動などによる公衆衛生が発達したことで、現在は男女とも80代（2015年）まで寿命が延びたのです。この公衆衛生や保健所の制度は日本独自のものです、世界各国からこの制度を学びに日本へ来るとのこと。50人近く集まった参加者は、人見先生の時にユーモアを交えた話に興味深く聴いていました。

後半は座長の土田正一郎先生の作品「脱皮」を鑑賞後、二人の座談会をおこないました。日本が公衆衛生に取り組んできた実績が世界に誇れるすごいことであり、私たちはもっと自慢に思っよいいという話はまさに「目からウロコ」でした。

5. 開催3か月前に町及び教育委員会に後援を申請し、チラシの全戸配布を行う。

## 今後の展開

1. 今年10月ころまでに来年度の講演会開催時期を検討する。来年度以降も開催時期をある程度固定できるようにする。
2. 地域とともに心の健康を考え地域全体が元気になる事業へ定着させるという目的達成のために「講演会対象者と講演者選定・テーマ」をしっかりと検討する。
3. 当法人単独の開催ではなく、「地域・職場での心の健康を考える」に関係する団体や企業に呼びかけ合同企画での開催にできるよう準備する。
  - ①10月までに呼びかける団体リスト作成する。
  - ②11月に具体的に呼びかける。
  - ③1月までに実行委員会を立ち上げ講演会内容を検討する。
  - ④3、4月講演者決定
4. ほかの高齢者福祉関係機関との連携を図り、講演会が重ならないようにする。